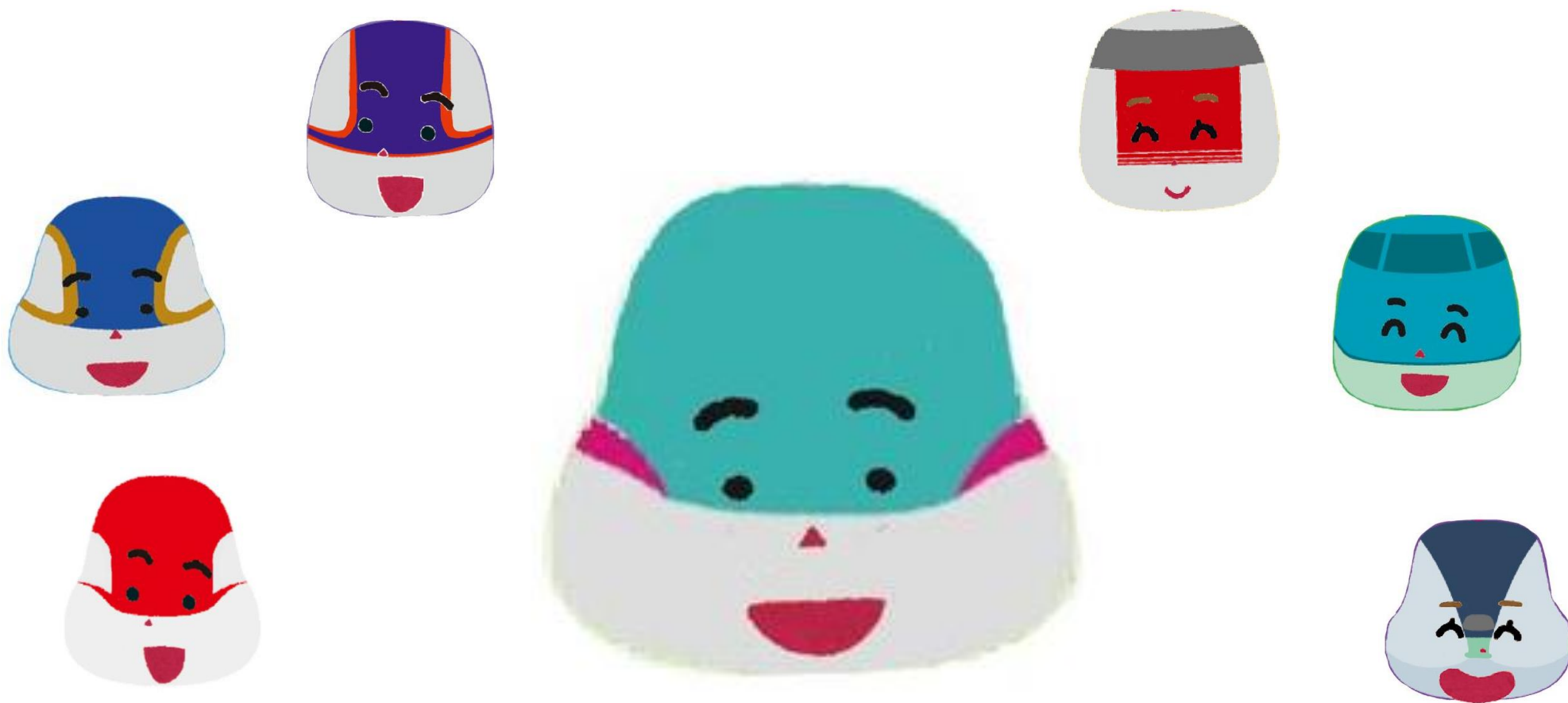


あいさつ　　うれしいね

---



あるところに ○○君という男の子  
がいました。

○○君は 新幹線が 大好き。  
家で プラレール遊びをしています。

すると、突然 プラレールから、  
モクモクと煙が あらわれました。

あっという間に ○○君は 煙  
に 飲み込まれて しまいました



〇〇君が 気がつくと、そこは  
プラレールの街、プラレールタウンで  
した。

〇〇君は E5系はやぶさの  
プラレールに なっていたのです。

「うわー、ぼく、いつの間にか  
E5系はやぶさに なっているぞ。」

〇〇君は驚きました。



「なんだか、ここは プラレールタウンの  
保育園みたいだ。

あっちからE6系こまち君がくるぞ。  
どうしよう!？」

恥ずかしがり屋の ○○君は  
ソワソワ してきました。



E6系こまち君は ○○君を 見つけると、  
ニッコリ笑顔で 言いました。

「おはよう！はやぶさ君。  
教室でつばさ先生、かがやき君が  
待っているよ。」



〇〇君は ドキドキしてしまい、  
「おはよう！」と 挨拶を  
返せませんでした。

でも「こまち君の おはよう、  
嬉しかったな。みんな僕のこと、  
待ってるんだ。」

〇〇君は 安心して 保育園の  
中に 入ることに しました。



保育園の中に入ると、  
イーストアイ園長先生が いました。

「うわー、どうしよう。園長先生は  
挨拶しても、時々、返してくれないだよなあ、  
今日も無視されたらどうしよう。。」

〇〇君は悩みました



その時、カバンの中の お守りから  
声が しました。

「大丈夫、〇〇君、挨拶は みんなを 嬉し  
くさせる 言葉だよ。  
挨拶をして、返ってこなかったら、  
それは 聞こえてなかっただけ。  
気にしなくていいんだよ。」

「そ、そうか勇気を出して言ってみよう。お、  
おはようございます！」

園長先生はとびきりの笑顔で  
「おはよう！！」と返してくれました。



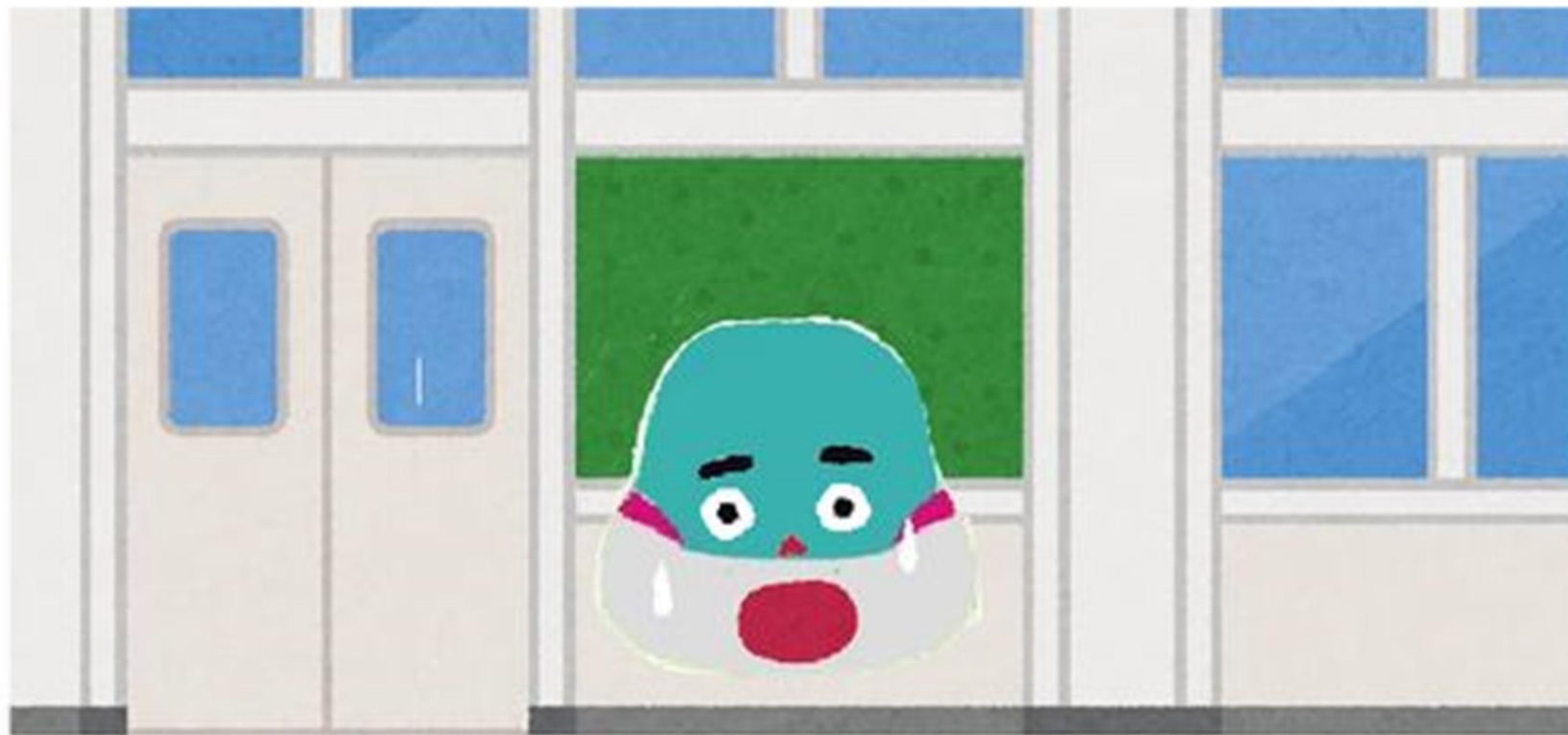


「園長先生、挨拶返してくれてよかった。」  
〇〇君はほっとしました。

そして、〇〇君は 教室の ドアまで  
来ると、またドキドキ してきました。

その時、あのお守りから  
声が しました。

「大丈夫 〇〇くん、  
つばさ先生が 笑顔で  
待っているよ。」



その言葉に 励まされた ○○君は  
『おはようございます！！』と言い、  
ドアを 開けました。  
すると つばさ先生が、  
「おはよう、元気に挨拶してくれてありがとう。  
先生、○○君のご挨拶ですごく元気が出たよ。」  
と褒めてくれました。

教室にいたこまち君、かがやき君も にこにこ  
笑っています。

「元気に挨拶をすると、みんな喜んでくれるんだ」  
○○君はそう思いました。



保育園での一日は あっという間に 過ぎ、  
お迎えの時間です。

アルファエックスママが ○○君を 迎えに  
来てくれました。



ママと一緒に 玄関で 靴を履いていると、と  
れいゆつばさ先生から  
「さようなら」と声をかけられました。

「とれいゆつばさ先生は いつも話が長くて  
嫌なんだよなあ。。」

〇〇君は心の中でつぶやきました。

その時、またお守りがささやきました。

「お話をしたくない時は 挨拶だけ すれば  
いいんだよ。  
ママが その後、話を してくれるから。」



「そっか、ようし！！...」 「さようなら」

小さな声でしたが、言うことがができました。

挨拶の後、とれいゆつばさ先生は  
〇〇君に 話しかけてきました。

でも、お守りが言った通り、ママが  
代わりに 話を 続けてくれました。

ようやく保育園での長い一日が終わります。

「今日は頑張って挨拶できたね！  
ママとっても嬉しいよ。」

アルファエックスママは ニコニコ笑顔で  
褒めてくれました。



ママと 手をつなぎ、外へ出た瞬間、  
そこは プラレールで遊んでいた  
いつもどおりの家に 戻っています。

遊んでいたプラレールも元通りです。

「僕、夢を見ていたのかな。」と  
〇〇君は 不思議な 気持ちです。

でも

「明日から勇気を出して、先生やお友達に  
自分から挨拶を試してみようかな」

と思ったのです。

おわり

